

私は母校である高等学校で2週間、教育実習生としてお世話になりました。〇〇高校は入学した時点から理系と文系に分かれており、両学科ともに1年生から自主的に課題を発見し、解決するための力の育成に重きを置いています。また、ICT機器を積極的に導入しており、生徒全員がタブレット端末を購入しています。全校にWi-Fiとプロジェクターを整備しており、それを用いて、音声・ビデオ教材の活用や課題、授業アンケートの提出を行っています。さらに、私も在籍していた学科では豊富にある実験設備を利用し、盛んに実験が行われています。

私は2週間の実習期間中、3年で理数化学の授業を計11回と、ホームルームクラスを担当しました。ホームルームクラスの子たちとは、SHRや授業の前後でしか関わる時間がなく、あまり交流ができなかったと感じます。実習最終日に、クラスの子から「先生ともっと話してみたい。」という言葉をもらい、もっと積極的に話しかけて、交流する時間を大切にすれば良かったと大きく後悔しました。しかし、実習期間中には体育祭もあり、皆の頑張りを間近で見ることができました。中心である3年生が団ダンスの練習に奮闘する姿には本当に感動しました。3学年をまとめ上げる苦労は計り知れないですが、クラス全員の協力のもと乗り越えた子たちの目の輝きは格別のものでした。

教科指導に関しては、特に以下の2点を強く実感しました。

一つ目は教えることの難しさです。45分の授業を組み立てるのは初めてで、不安しかありませんでした。実際に授業を行ってみても、生徒も巻き込みながら、時間内に予定の範囲まで進めることは本当に大変で、不安は募るばかりでした。自分自身の技量のなさに悲しくなる場面もありました。しかし、指導教諭の先生から「それは仕方のないことだ。一つずつ改善していけばいい。」という言葉いただき、前を向くことができました。そして、「生徒が聞いていてイメージしやすいか、重要なことが何処か分かるか。」を第一に考えるようにしました。その為に、ただ言いたいことを詰め込むのではなく「重要なポイントでは前を向かせた上で、抑揚をつけて話す」ことを意識しました。また、スライドでは粒子のモデル図や写真、また日常にある例を使ってイメージしやすくなるように工夫しました。具体的には、スライドにアニメーションをつけて、蒸気圧降下のイメージを可視化できるようにするほか、凝固点降下が融雪剤に使われている例や溶液の凝固点降下はポカリスエットを凍らせたときの例を用いて説明をしました。そうして迎えた研究授業では、抑揚の点はまだまだできていませんでしたが、「前を向かせて集中させる」という点では先生方にも褒めて頂けてよかったです。また、授業アンケートを通して「図や例があって分かりやすかった!」との声を生徒から聞くことができ、本当に嬉しかったです。教えることは難しかったですが、生徒の目線で考えた授業だと、きちんと届くのだなと知ることができました。

二つ目は生徒の気持ちを感じ取る難しさです。授業をしていて、生徒の反応の無さに驚きました。本当に理解しているのか?そもそも聞いてくれているのか?心配でした。また、子どもたちの顔が無表情で怖く、「教育実習生なんかの授業は聞きたくない。」と思っているようにも見えました。しかし、その不安を指導教諭の先生に伝えたところ、「生徒が怖い顔をしているのは、不安だからだよ。」と

教えてくださり、そうか自分もそうだったなと気付くことができました。そして、まずは本当の気持ちを知るために授業アンケートを取ることにしました。

授業終了後、「1.学んだことや興味を持ったこと / 2.分からなかったこと / 3.その他」という三項目でアンケートを取りました。その結果、予想以上に「分からないところはなかった。」との声が多く、見た目では分からない事ばかりだなと感じました。また、「この問題がわからなかった。」「この現象がなぜなのか気になる。」など思ってもいかなかったつまりポイントや疑問点を知るきっかけにもなりました。また、「先生の授業、分かりやすいです!」「優しい先生で好きです!」と答えてくれる生徒もいて、自信につながり、授業へのやる気もすごく向上しました。このアンケートを通じて、「怖い顔しているし、聞く気がないのだろう。」と決めつけるのではなく、見た目の裏に何かしらの思いがあることを忘れず、その「本当の思い」を知ろうとする姿勢が大事だと気付くことができました。そして、子どもたちに関心を持ち、そのことを子どもたちに伝えることで、本当の意思疎通ができるのだな。と実感しました。

2週間の実習を通じて、教える際には「生徒にどうなってほしいのか」、「生徒自身で何を考えてほしいのか」を考えることが大切であるとわかりました。なにより、このような生徒に目指してほしい姿を考えるためには、日ごろから生徒のことをよく観察し、「ゴールに向けて、何を行うべきか」の目的意識を明確にして授業を作る必要があります。まだまだ足りないところばかりですが、実習で授業を行っていくうちに、この考え方を少しは身に着けることができたと感じます。

これから、さらに多くの生徒が楽しく理解できて、化学に興味を持ってくれるような授業を作るために、今の私には特に「観察力」がたりないと気付くことができました。今回の実習で、子どもたちの理解度や感情は想像の真逆であることばかりだと実感しました。ですから生徒のことをよく見て、よく話して、「どうすればわかりやすいか」「自分で考えてみたくなるか」生徒目線で考えることのできるような先生を目指し、勉強に励みたいと思います。